

祝 CSRスクエアの支援で、学校・小規模水力発電所が完成間近

シーエスアールスクエアが、ベトナム北部のトゥエンカン省、ランビン郡を訪問することになったきっかけは、2018年にさかのぼります。福島県から4人の先生方を案内して、トゥエンカン省、タンチャオ村などを訪問させていただいた際に、現地トゥエンカン省の外務局・教育訓練局との会議の際、最後に、ランビン郡の人民委員長のグエン・バン・ズン様ははるばるランビン郡からお出でになり、「風光明媚ではあるが、貧しく山岳少数民族の多く暮らすランビン村を訪問し、可能な範囲での支援」の依頼を受けたことに始まります。

次の年の2月、多くの少数民族の祭りである「ロントン祭」に招待を受け、理事の上野と訪問しました。その少数民族それぞれの文化と踊りを披露する祭りの魅力も素晴らしいものでしたが、それにも増して、人造湖ではありますが、そのダム湖の美しさに魅了されました。

しかし、そこに住む少数民族の人々の貧しさは、筆舌に尽くせぬほどのものでした。奥地のフックイエン小学校の分校のあるナキエン村には、電気のない学校と薄暗い村人の家々がありました。また、倒壊寸前の真っ暗な校舎にもかかわらず、瞳を輝かせて学ぶ子供達が100人以上がいました。「この学校を建て替えてあげたい。電気を灯してあげたい。」そんな願いが大きくなっていきました。

昨年の夏には、18人の先生方を案内して、ランビン郡を訪問させていただきました。ベトナムで準備した大型テレビや制服110着だけでなく、日本から300kg以上のプレゼントを持参し、文化交流やミニ運動会も現地の子供達と楽しむことができました。一緒に現地調達食材で作った昼食も食べることができました。日本から案内した先生方には、「一生の宝物となる訪問でした。」と仰っていただくことができました。(会報5号3ページ参照)



発電機 (写真1)

そうした中、昨年の9月から提案してあったナキエン村のフックイエン小学校バンブック分校の全面改築と小規模水力発電所の建設が、日本国外務省の「草の根無償資金協力事業」として採択となり、3月9日にハノイの日本大使館で調印式でしたが、今回のコロナウィルス感染拡大予防のため、参列することができませんでした。しかし、建設は無事にスタートし、先月の9月20日には、5KWと8KWの発電機(写真1)で発電が始まり、学校だけでなく、近隣の15家庭に長年待望の明かりが灯りました。



完成間近の二階建て校舎 (写真2)

長雨の影響で、工事は1ヶ月ほど遅れてはいますが、校舎の全面改築は、順調に進み、今月の20日頃には、完成予定です。写真2は、9月24日撮影のものです。

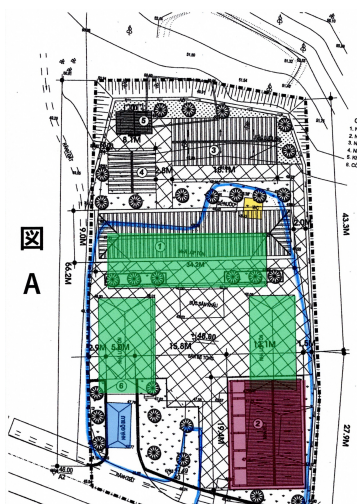


図 A

図Aの青い線が、改築前の校地で、図Bの青い線が、北へ20mほど広げた校地です。写真2の校舎裏を見ていただくと、どれだけ山奥の場所かが理解いただけると思います。

また、図Aの茶色の校舎は危険校舎、緑色の校舎が現在利用している真っ暗で手狭な一階建ての校舎です。また、図Aの奥の緑の校舎のすぐ裏の小さな黄色は、利用できないトイレ、左下の青い建物は、木の皮とトタン屋根の教員宿舎です。

それらを全部取り壊し、図Bのように、緑色の2階建ての校舎、茶色の寮、水色のランチルーム、黄色のトイレに改修されております。現在は、最後の校舎建設の最終段階になってきております。

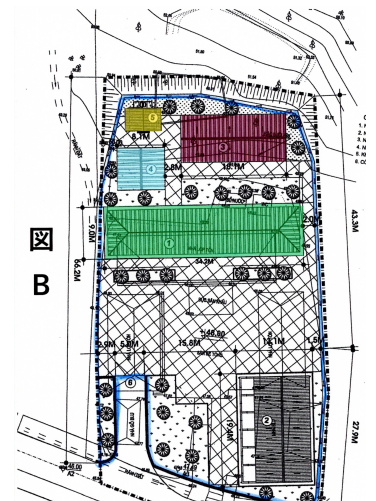


図 B

11月20日(金)に落成式が予定されています。渡航して、出席できることを願っています。

支援者の声:「時東あみさん」 (東京都世田谷区、タレント)

ベトナム中部、 カンナム省、ティエンフック村に 井戸3本をプレゼント!



昨年11月完成、ティエン・フォン診療所
深さ60.7mの井戸

初めまして。タレント活動をしています時東あみです。
私は『時東あみアジアチャリティープロジェクト～子どもたちに笑顔いっぱい未来を～』というチャリティー活動をしていて、シーエスアールスクエアさんを通じて、何度か寄付をさせていただいています。なぜ私がチャリティー活動をするようになったかと言いますと、8年前に初めてベトナムで開催された“ジャパンフェスティバル”というライブに出演をさせていただき、その後も何度かライブで訪れ、ベトナムが大好きになっていきました。その時に「ライブに来られてる人は裕福な人で、まだ学校に行けず読み書きができなかったり、仕事につけていない人はたくさんいるんだよ」と関係者の方に言われました。かなり衝撃的な事実で、都心が発展しすぎてそんなことを忘れてしまっている現地の方もいると。

それと同じ時期に私の父が亡くなり、遺品整理を家族でしました

た。その時にまだ使えるものがたくさん出てきたので、いろいろなところに寄付しようと送ってみました。まだ繋がりもなかったので、ネット検索をして出てきたチャリティー団体へ洋服や靴、食器など大量に寄付。送ったときは気持ちもよく、「父も喜ぶな。」と思っていたのですが…。「どこの国で、誰が受け取ったのか…そもそもちゃんと届いているのか…」疑問に思いました。「他にも疑問に思ってる人が多いのでは?」と思い、金額、届き先、どんな人が受け取ったかをきちんと報告するチャリティー活動『時東あみアジアチャリティープロジェクト～子どもたちに笑顔いっぱい未来を～』を2016年4月1日にスタートすることにしました。と言っても、何から始めたらいいかわからなかったもので、まずこのチャリティー活動を始めたことを知らせるためにチラシを作り、たくさんの知り合いの方々に配りました。チラシを見て、その場で寄付してくださる方もいて2ヶ月後には第一弾の支援が成功しました。学校備品、制服、文房具をベトナムのバンチャウ小学校へ。届き先も届いたときの写真なども送っていただき、大満足でした。

でも、チラシを受け取ってくれた知り合いだけではチャリティーを続けていくことは難しい。「そもそも他の人にとって“チャリティー”の印象はどうなのだろうか?」など、頭をぐるぐる。何かいい方法はないかと考え、“チャリティー＝敷居が高い”というイメージを“チャリティー＝楽しい”にテーマをしようと。私にできることはチャリティーとエンターテインメントをつなげることだと思い、いろいろな企画をやることにしました。賛同してくれたアーティスト、アイドル、バンドを集めてチャリティーライブ。モデル、カメラマン、飲食店を組み合わせチャリティー写真展。チャリティーグッズの販売。チャリティー音楽番組を制作するなど。その結果、現在では井戸3つ、プロジェクター、洋服、ぬいぐるみなど、いろいろなものを寄付することができました。

4年前には最初に寄付した先、バンチャウ小学校と他3校にご挨拶をしに私も山奥に連れて行っていただきました。まだ道も舗装されていなく、大きな穴が空いていて胸までの水たまりがあったり、車が通れない先に学校があったり、行く道は過酷。学校はボロボロ、トイレもない、ひどい環境のところもありました。でも、そこにいる子どもたちは本当可愛い笑顔なんです。心が浄化されるような素敵なお顔。先生方も喜んでくれていました。

もっともっと多くの人たちを笑顔にさせたい。「ベトナムだけじゃなく、アジア、全世界を」と気持ちが強くなりました。私の目標は“時東あみ学校”を作ること。賛同してくれて協力してくださるファンの皆さん、企業さん、そして、シーエスアールスクエアさん。多くの方々の気持ち、協力がないと続きません。私なりの“楽しいチャリティー”を続けていけるように。待ってる子どもたちを笑顔にするために。笑顔でチャリティーに参加してくれる方々に本当に感謝します。引き続きシーエスアールスクエアさん協力のもと、チャリティー活動を頑張っていきたいと思っています。



出前授業・講演会の実施と予定（4月～来年3月末まで）

今年度の出前授業・講演会は、今回のコロナウィルス感染拡大防止のため、2月末から3月実施予定であった学校も含めて、全てキャンセルとなりました。その中には、広島県の福山大学の1500人対象の講演会があったり、栃木県大田原市の教職員研修会の講演会など、大きな講演会が含まれていました。その後、改めて申込みはあったものの、全部で8回のみとなってしまっています。（下の表を参照）

これまで例年50回から60回ほど実施してきたため、残念な状況です。また、3番目の実施にあります「愛知県私立幼稚園連盟」の幼稚園の先生方対象の講演会は、インターネットの会議アプリである「Zoom」を使っての講演でした。初めて経験でしたが、やはり聞いてくださる方々の反応が見えないことは、プレゼンを進めるうえでも、難しさを感じた講演会でした。しかし、コロナ禍の時代を見据えた可能性を秘めた取り組みとなったと考えています。右上の写真は、Zoomを使った講演の一場面です。

そうした中でも、福島南高等学校での講演会では、3年生に、理事長宍戸が退職した小学校からの進学した教え子との出会いがあったり、東京第1原子力発電所の爆発で、全村避難となった当時の飯舘村立草野小学校の在校生に出会ったりと、貴重な出会いがありました。

さらに、右の写真の「竜の絵」は、東京都町田市立南大谷小学校の今年3月の卒業生が、3学級それぞれに描いたものの1枚です。横7m・縦1.5mもの大きさです。3枚を預かっており、1ページ目の完成予定の学校の



11月20日の落成式に持参して、新しい校舎に飾ってもらおうと考えています。「竜」は、ベトナムの子供達にとっては、「夢と希望」の象徴です。現地の子供達の驚き喜ぶ笑顔が楽しみです。



No.	月 日	曜	時刻	学 校 等 名	学年	学級数	生徒数	教科	参観者
1	7月21日	火	18:30	大阪市、アースフレンドシップフェスティバル勉強会				講演会	20
2	9月10日	木	11:00	東京都目黒区立東根小学校	6	3	94	総合	5
3	9月18日	金	15:00	愛知県私立幼稚園連盟環境教育特別委員会 (Zoom)				講演会	20
4	9月24日	木	12:50	福島県立福島南高等学校	全	13	511	講演会	30
5	9月25日	金	13:35	東京都町田市立南大谷小学校	6	3	115	講演会	6
（以下は、9月30日現在の正式申込みの実施予定校）									
6	11月7日	土	9:20	東京都江戸川区立鹿骨東小学校	6	2	64	講演会	10
7	12月8日	火	13:35	いわき市立植田東中学校	2	2	21	道徳	6
8	12月15日	火	13:30	いわき市立平第3小学校	6	2	74	総合	5

【ラジオ番組「お母さん教室～話の広場～」】

8月4日・11日・18日、ラジオ福島での放送

2017年9月にスタートし、それぞれ火曜日の9:40～9:55までの放送、4年間、計21回の理事長・宍戸のラジオ福島での番組です。今年の8月にも、3回放送となりました。今回のテーマは、「コロナウィルスの影響とこぼれ話」で、昨年12月に、福島から4人の女子中学生と高校生を引率し、ベトナム中部のダナン市で英語研修をしながら、現地の3つの中学校と高校での文化交流にまつわるエピソードが中心です。ご希望があれば、録音のCDをお送りできますので、ご連絡をお待ちしております。



2020年4月～2020年9月の正会員・法人等（敬称略）、特別寄付者名

◆正会員◆

宮城県	菊田 榮四郎	福島県	折笠 哲也
	佐藤 美奈子	同	柿沼 孝明
	庄司 緑	同	片野 宗和
東京都	伊勢 英子	同	金澤 一秀
同	置鮎 早智枝	同	金澤 陽子
同	中嶋 朋宏	同	菅野 八百子
同	南雲 利明	同	齋藤 千賀子
同	柳田 邦男	同	齋藤 典子
栃木県	片瀬 英彰	同	佐藤 美保子
千葉県	石井 克則	同	宍戸 仙助
同	石塚 勝巳	同	宍戸 美紀子
同	太田 利彦	同	島田 荘
同	小林 弘英	同	鈴木 キミ子
神奈川県	小野 愛里	同	鈴木 教弘
同	佐藤 純子	同	須藤 賢一
同	佐藤 洋平	同	高信由 美子
静岡県	大石 孝裕	同	富山 幸子
愛知県	牧原 東吾	同	長原 美香
三重県	村上 晴紀	同	西坂 勲
岐阜県	若尾 守康	同	林 克重
大阪府	奥野 麻弥	同	室井 君男
兵庫県	桧垣 拓司	同	横谷 進
福島県	伊藤 稔	同	吉川 哲也
(50音順)	大槻 渉		

◆法人会員◆

大阪府 (株) つきまくり 福島県 (株) 春光園

◆特別寄付◆

東京都	伊勢 英子	福島県	伊藤 稔
同	置鮎 早智枝	同	片野 宗和
同	時東 あみ	同	加藤 澄子
同	中嶋 朋宏	同	菅野 八百子
同	柳田 邦男	同	佐藤 美保子
千葉県	藤原 勝子	同	宍戸 仙助
神奈川県	鎌倉 学園	同	宍戸 美紀子
同	川原 歯科医院	同	島田 荘
静岡県	大石 孝裕	同	鈴木 キミ子
愛知県	牧原 東吾	同	鈴木 教弘
三重県	村上 晴紀	同	須藤 賢一
大阪府	奥野 麻弥	同	高信由 美子
兵庫県	桧垣 拓司	同	西坂 勲
		同	林 克重



◆ CSR2往来 2020.4～2020.9 ◆

- 4月 ● 会報5号発行 (10日)
- Lam Binh郡人民委員会WEB会議 (27日)
- 5月 ● 第三期総会開催(書面表決) (10日)
- JICA東北プロジェクト相談(WEB) (19日)
- Lam Binh郡人民委員会WEB会議 (23日)

- 6月 ● 外務省・日本NGO連携無償資金協力 実施要領 オンライン説明会 (22日)
- 第6回理事会開催(書面表決) (23日)
- 8月 ● JICA東北プロジェクト相談(WEB) (6日)
- 理事長「ラジオ福島」出演 (4, 11, 18日)
- 9月 ● Lam Binh郡人民委員会WEB会議 (4日)
- JICA・事業マネージメント研修 (11日～13日)
- JICA東北プロジェクト相談 (28日)

NPO法人 シーエスアールスクエア (CSR²) (輝く学校広場)
Challenge for School Revival & Corporate Social Responsibility
 〒960-8136 福島県福島市八島町6-29 TEL 090-2604-4226 FAX 024-533-2612
 URL: <https://csr2.or.jp/> E-mail: shishido.csr2@gmail.com